

# 原発の建設計画は凍結し、既存の原発も段階的に縮小を 世界一の原発の隣接自治体としては初の意見書採択

6月定例会市議会は24日、すべての議案を可決して終了しました。日本共産党議員団は、防災ラジオの取得の案件以外についてはすべて賛成しました。防災ラジオについては、入札に関して情報提供があり、24日の段階では賛成も反対もできないとして棄権しました。

6月定例会市議会は災害対策に質問が集中しました。地震、津波、原子力災害対策です。こうしたなかで、注目の「原子力発電所の段階的縮小と再生可能エネルギーへの転換・促進を求める意見書」が賛成32、反対12で採択されました。(下の写真は採決の様子)

提案理由の説明をしたのは、市民ネット改革の吉田侃議員。日本共産党議員団は、原発からの撤退と自然エネルギーへの転換をめざす立場から、全員が賛成者に名を連ねました。

上越市は世界一の規模を持つ柏崎刈羽原発に隣接する自治体です。それだけに、今回の意見書提出は原発からの撤退の流れを大きくするうえで価値があります。この意見書

は、国会並びに関係行政庁に提出されます。

賛成討論に立った市民クラブの塚田俊幸議員は、「福島原発事故は決して他人事ではない。私たちは事故の教訓から、原発政策の見直しに向けて、原発の段階的な縮小をすすめながら、いままでも国策として推進されてきた原発から、今度は国策として再生可能エネルギーへの転換を積極的に推し進めてもらいたいことを声を大にして求めなければなりません」と訴えました。

上越市議会議会基本条例では、「議会活動及び市政運営に関する自らの考えについて、市民への説明責任を果たすこと」(第3条)が求められています。今回の意見書採択に反対した人たちは反対討論に立ちませんでした。

以下は意見書に記載された要望事項です。

1 国民の安全・安心を回復するために、福島第一原発事故に係る放射能汚染の徹底した調査・評価と正確で迅速な情報開示を行うとともに、一刻も早い原発事故の収束を

図ること。

2 原子力発電に依存してきた従来のエネルギー政策を抜本的に見直し、効果的なエネルギー消費の削減策を立てるとともに、太陽光、風力、地熱などの再生可能エネルギーを基幹エネルギーとして位置付け、エネルギー源の速やかな転換を図ること。

3 原子力発電所の新たな建設計画は凍結し、既存の原子力発電所についても運転の計画的停止など段階的縮小を進めること。

4 原子力発電所の安全・安心を確保するために、「原子力安全神話」という虚構をもたらし推進体制・体質をはじめとする今回の事故原因の徹底した調査・検証を踏まえ、全面的な公開性の下に地震・津波対策などに関する抜本的な安全対策を講じること。

5 今回の事故対応の徹底した調査・検証を踏まえ、EPRの範囲拡大等を含む原子力防災指針等の抜本的な見直しを行い、危険な原子力災害から国民の命とくらしを守る対策の強化・充実を図ること。



私が少年時代を過ごした場所は吉川区尾神の蛍場というところ。蛍場というのには小字名で、そこに住んでいる人たちは「ほとろぼ」または「ほとるぼ」と呼んでいました。私が蛍場の出身であることを初めて知った人の多くは、「いい名前だね」とほめてくださいます。

いまから五〇年ほど前、蛍場には「さくらさわ」「おおひがし」「ひがし」「おおにし」「かみ」「いどんしり」「むこう」、そしてわが家の「ほーせ」（いづれも屋号）の八軒がありました。いまは四軒（全部で五人）だけになってしまいました。が、蛍場に八軒あった頃、子どもは大勢いましたし、蛍場という名前の通り、ホタルがたぐささんいたので。

当時、わが家の前に釜平川（がまびろがわ）という川がありました。と言っても、距離的には一〇〇メートルほど離れていましたが。蛍場と釜平というところの境に、川幅がわずか一メートルほどの小さな川が流れていて、釜平川に流れ込んでいました。この小川の周辺がホタルたちの棲家でした。

ホタルが出るのは六月の半ば過ぎ、わが家の庭にあった梅の木の実をもぐ頃でした。暗くなって、わが家から釜平川の方面を見下ろすと、左の方にホタルが放つ無数の光が見えました。そのうちの何疋かはわが家まで飛んできました。

蛍場の子どもたちは、小川周辺に飛ぶホタルを採って遊びました。小川まで持っていったのは草ぼうき、または竹ぼうきでした。ほうきをサツとひと振りするだけでホタルを採ることができたのです。

すっかり生活の中に入り込んでいたホタルも、農薬などの影響があったのでしょいか、私が高校へ行く頃にはほとんど姿を見ることができなくなりました。それからしばらくホタルのことを忘れていました。

私がホタルのことを思い出すようになったのは五〇歳前後の頃です。野に咲く花が好きになり、いろんな野の花を求めようになりました。そこで頭に浮かんだ花のひとつがホタルブクロでした。この花は蛍場に住んでいたとき、わが家の土手や釜平というハサ場へ行く途中に咲いていました。

ホタルブクロの開花とホタルの出る時期がほとんど一緒であることを思い出したのも一〇年ほど前のことです。子どもの頃、ほうきで採ったホタルを花の中に入れて記憶が蘇ったのです。その花をチョウチンバナ（提灯花）と呼んでいたことも。

以来、ホタルブクロが咲くと、ホタルを見に行きたくなります。どういわけか、私とホタルとは縁があり、いま住んでいる代石（たいし）の近くでもホタルを見ることができます。場所は大出口川とその周辺の用水路です。

先日もホタルを見に出かけてきました。蒸し暑い日でしたので、夕涼みがてら、歩いて大出口川へ行きました。県道から川の近くまで行くと、右にも左にもチカッ、チカッと光るものが見えます。さらに進んで農道橋へ。欄干から川下を見た瞬間、「わあっ、すごい」と思いました。数十疋のホタルが上に下に横にと飛び交っていたのです。そこはまさしく「蛍場」、子どもの頃に見た風景と同じでした。

「蛍場」は私のふるさとです。ホタルを見ただけで心が休まります。最近、気になっているのは、子どもの頃に見た「蛍場」がどうなっているかです。ひよつとするとホタルが復活しているかも知れない。もしそうであるなら、どれほどうれいことか。

## 防災ラジオの入札で情報提供あり

24日の本会議では、防災ラジオ取得の議案も可決されました。今回の議案は総務常任委員会でも議論が行われましたが、その後、私たち議員団のところにある人から情報が寄せられ、それをもとに入札が公正に行われてきたかどうかを独自に調査してきました。

寄せられた情報は、防災ラジオを導入した平成21年度からの関係業界の動きをまとめたもので、A4の用紙で14ページにも及ぶものでした。

そこには「5月20日午後1時30分に●●において●×と面談し、23年度入札に関して協議を行いました」などと書かれ、協議についても「過去の全国の入札の経緯から、4400円で勝てる。保険をかけるなら、4350円で入札願いたい。▲△へのコミッションは1台200で願いたい」とじつにリアルに書かれていました。

私たち議員団は23日、この情報提供者と会い、事の経過などを詳しくお聞きしました。しかし、今回の入札が公正でなかったとする決定的な証拠を得るには至りませんでした。ただ、防災ラジオの契約をめぐる動きについては信ぴょう性が高いと判断。それで今後、どういう展開になるかわからないので、現段階では判断できず、採決にあたっては退場（棄権）しました。

市の防災ラジオ購入をめぐるっては、一昨年から様々な情報が飛び交っていました。今後の展開次第では、

100条調査権の発動など確実な調査ができる方法も考えなければならぬかも知れません。

## 13区総合事務所、地元職員は半分以下

災害対策を議論する中で13区の職員体制についてどうすべきかが問題となっています。現況は以下のとおりです。ご意見をお寄せください。

|                               | 総合事務所<br>職員総数 | 地元職員数 | 地元職員の割合 |
|-------------------------------|---------------|-------|---------|
| 安塚区                           | 28            | 11    | 39.3%   |
| 浦川原区                          | 32            | 15    | 46.9%   |
| 大島区                           | 26            | 12    | 46.2%   |
| 牧区                            | 27            | 12    | 44.4%   |
| 柿崎区                           | 42            | 21    | 50.0%   |
| 大湊区                           | 39            | 12    | 30.8%   |
| 頸城区                           | 39            | 17    | 43.6%   |
| 吉川区                           | 30            | 15    | 50.0%   |
| 中郷区                           | 27            | 15    | 55.6%   |
| 板倉区                           | 32            | 16    | 50.0%   |
| 清里区                           | 27            | 10    | 37.0%   |
| 三和区                           | 34            | 15    | 44.1%   |
| 名立区                           | 27            | 14    | 51.9%   |
| 合計                            | 410           | 185   | 45.1%   |
| ※6月29日聞き取り調査。病気などによる休業中の者も含む。 |               |       |         |